TOHOKU UNIVERSITY HOSPITAL

With

東北大学病院
地域医療連携センター通信

第3号
2007.2

CONTENTS

1…… がんセンター長ごあいさつ
2…… がんセンターの組織と事業
3…… 循環器内科の診療紹介
4…… 岩倉政城先生　特別講演会開催
コーヒーブレイク
5…… 認定看護師紹介
滑りにくいサンダルで「安全足進」
ドナルドがやってきた!
6…… 向井亜紀さん特別講演会が開催されました
婦人科がん患者会「カトレアの森」
「糖尿病何でも相談」を開催して
7…… 平成18年度　第1回ワークショップ開催しました
地域医療連携センターからのおたより
8…… 新患日一覧
お問い合わせ先一覧
絵画が寄贈されました!
編集後記

人にやさしく未来をみつめる―

東北大学病院
〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号
TEL 022(717)7000(代)
地域医療連携センター
TEL 022(717)7131(直通)
FAX 022(717)7132

★ SPECIAL

●特集● 都道府県がん診療連携拠点病院

●ごあいさつ

東北大学病院がんセンター長　山田 章吾

本年11月東北大学病院にがんセンターが設置され、専任のがんセンター長に任命されました。平成16年に開始された第三次対がん十カ年総合戦略の基本方針は「がん医療の均てん化」で、全国どこでもがんの標準的な専門医療を受けられるよう、医療技術等の格差の是正を図ることとされ、これによってがんの治療成績を20%アップするというものです。均てん化を担うべき厚労省の指定するがん拠点病院に特定機能病院（大学病院）は含まれていませんでした。特定機能病院をがん拠点病院に指定しなければ拠点病院不在の県が出ること、また大学病院におけるがん教育の質を高めなければ均てん化はあり得ない、という議論を経て、特定機能病院ががん拠点病院に指定されることになりました。特定機能病院が指定されてこなかった大きな理由は省庁間の壁であったと思いますが、がん医療均てん化は全省庁あげて行う事業であるとされ、この点は問題になりませんでした。むしろ教授が替われば診療内容が変わってしまうという大学の特質が問題にされ、その解決のためか、大学病院を指定する条件として、大学病院にがんセンターを設置して専任のセンター長をおき、継続的にがん診療を行うことと付議されました。多くの皆様のおかげで宮城県では宮城県立がんセンターと東北大学病院の2つが都道府県がん拠点病院に指定されました。大学病院は縦割りの講座制度が強く、特に診療科を超えたチーム医療が必要ながん医療にあって、患者さんが望む全人的医療を行ってきたとは言えないのが現実と思います。東北大学病院がんセンターは腫瘍外来や腫瘍会議を設け最適な集学的治療方針を患者さんに提示し、エビデンスを得るための臨床研究をすすめ、指導的ながん専門医あるいはがん医療に特化したコ・メディカルの育成、および治療成績の公表や啓蒙活動、相談受付などを行います。皆様のご協力をお願い申し上げます。

★ SPECIAL

東北大学病院がんセンターの組織と事業

がんセンター 副センター長 石岡 千加史

都道府県がん診療連携拠点病院の指定取得まで

2006年2月、厚生労働省が定めるがん拠点病院の枠組みは大きく変わりました。従来の「地域がん診療拠点病院」から「がん診療連携拠点病院」に名称も変更され、特定機能病院（大学病院）が初めてがん拠点病院に申請できるようになりました。また、昨年6月には通常国会で「がん対策基本法」案が通過し、今年4月からいよいよ施行されます。2004年にスタートした第3次対がん10ヵ年計画と併せて、わが国におけるがん対策はいよいよ本格化しています。このような背景から、本院では里見進病院長の指揮下で都道府県がん診療連携拠点病院の指定獲得に向けていち早く準備を開始しました。その後、宮城県、宮城県立がんセンター、本院関連診療科長との意見調整を行い、昨年8月、第1回の「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定されました。なお、8月の指定病院数は都道府県がん診療連携拠点病院としては本院を含め16病院（うち大学病院は9病院、旧7帝大系は本院のみ）でした。

都道府県がん診療連携拠点病院としての役割

がん拠点病院の枠組みが変化したことにより、がん診療連携拠点病院の指定要件はこれまでよりかなり厳格になりました。院内の各種がん診療体制はもとより、放射線治療体制、化学療法施設、緩和ケアチームの整備と専門医療職（医師、看護師、薬剤師、技師、診療情報管理士、臨床心理士、MSWなど）の配置が求められているほか、地域に対して、（1）研修事業、（2）ネットワーク事業、（3）院内がん登録事業、（4）がん相談支援事業および（5）普及啓発・情報提供事業が求められています。さらに本院が指定を受けた都道府県がん診療連携拠点病院の場合は、地域のがん診療連携拠点病院（宮城県は5病院）に対して研修や診療支援が求められています。宮城県では、県、宮城県立がんセンターと本院間で協議し1県2都道府県がん診療連携拠点病院（本院と宮城県立がんセンター）で申請し、全国初の試みとしてこの「ダブルトップ方式」が認められました（図1）。

がんセンターの組織と今後の事業

このように、都道府県がん診療連携拠点病院には、拠点病院としての院内機能の整備と、研修や人材交流を通じた他の拠点病院に対する指導力が求められています。本院のような特定機能病院ががん診療連携拠点病院に指定されるための重要な要件に、専任のセンター長を置く腫瘍センターの設置が必要でした。そこで院内に新たにがんセンターを設立、11月に山田章吾先生がセンター長に任命されました。現在、がんセンターの組織（図2）を急ピッチで整備を進めているところです。院内整備については、院内がん登録の体制強化が早急の課題です。メディカルITセンターによる院内がん登録システムがまもなく完成し、今年1月からの本院受診患者のがん登録をスタートします。本院では診療情報管理士が1名から2名への増員が予定されているほか、拠点事業予算による院内がん登録への人的支援が行われます。また、がん診療相談室に寄せられる相談への対応に専任職員を配置するほか、専門的診療相談についてはセカンド・オピニオン外来を利用した対応が行われます。さらに、来年度以降の重要課題として、がん会議（全体会議）による院内コンセンサスの形成や診療科横断的カンファランスの構築によるより高度ながん医療の構築を目指します。

平成18年度半ばの指定で厚生労働省の事業予算配分が遅れたことにより、本年度の事業の開始は10月頃から準備が急ピッチで進められました（表1）。まず、一般病床での緩和医療の向上のため緩和ケアチームが結成されました。チームの構成は緩和医療科2名、精神科OB 4名、看護師2名（専従1名）、栄養管理士1名、MSW1名、薬剤師1名で医事課がサポートします。試験運用を経てこの1月から正式に診療がスタートしました。昨年12月には、第1回宮城県がん診療連携拠点病院協議会が開催されました。研修事業は協議の結果、化学療法研修は本院が、放射線治療と緩和医療は宮城県立がんセンターが担当することになりました。ご承知のとおり、昨年10月から化学療法センターは東病棟4階に移設30床に拡張され、化学療法の件数は毎月延べ600人を超えています。本院の化学療法センター機能を生かして、今年度の化学療法研修事業として、がん拠点事業として2月と3月に県内他病院を対象にした「がん薬物療法3日間研修」と「宮城県がん診療連携拠点病院・化学療法標準化研修（仮称）」を予定しています。また、がん拠点事業と関連して、1月から宮城県の事業として、「専門分野（がん）における質の高い看護師育成研修」（看護部担当）、厚生労働省事業として、「がん専門薬剤師養成コース」（薬剤部担当）がスタートしています。

厚生労働省はがん拠点事業によりわが国のがん診療のボトムアップを推進しており、今後は、各施設のデータをがん登録だけでなく診療実績・治療成績の開示が求められます。また、がん診療体制の整備は、文部科学省および厚生労働省の他の事業（がん専門医療職の育成、トランスレーショナル・リサーチや治験の中核・拠点化）の獲得・整備と関連すると考えられます。これから本格化するがんセンターの活動には関連診療科・部署のご協力が極めて重要です。どうぞ宜しくお願いいたします。

図1.全国初のダブルトップ方式によるがん診療連携

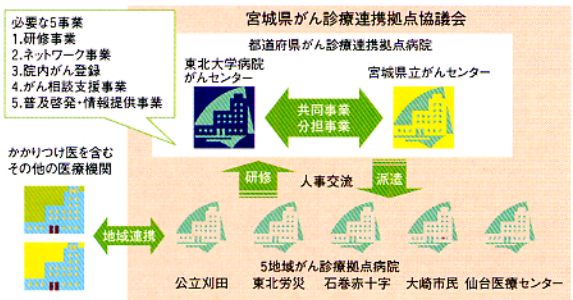


図2.東北大学病院がんセンターの組織図

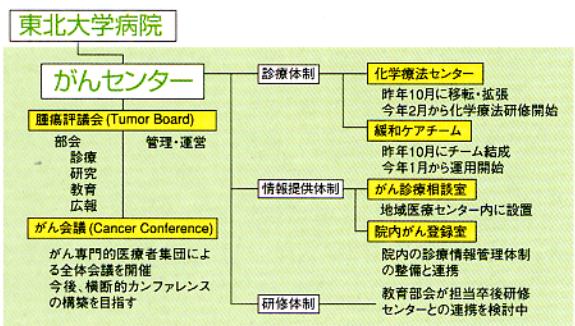


表1.がんセンターの平成18年度事業予定

平成19年1月	緩和ケアチーム運用開始
平成19年1月	がんセンター説明会
平成19年2月	第1回がん会議（全体会議）開催
平成19年2月	がんセンターHP開設
平成19年2月	院内がん登録システム完成と登録開始
平成19年2月～3月	がん薬物療法3日間研修開始
平成19年3月	第1回化学療法標準化研修会開催
平成19年3月～4月	「がんプロフェッショナル育成プラン」の申請

この他に診療、研究、教育、広報の4部会の活動をそれぞれ開始。
また、本院の関連研修として宮城県事業・専門看護（がん）における看護師育成研修（1月～2月）、厚労省事業・がん専門薬剤師育成コース（1月～3月）の受け入れがあります。

SERIES ／診療科紹介

循環器内科の診療紹介

循環器内科は冠動脈疾患、心筋疾患、肺動脈疾患、弁膜症、不整脈など、すべての循環器疾患を対象とし、教官15名をはじめとした総勢40名のスタッフで臨床業務に当たっております。一般病床49床の他に10床のCCUを有しており、重症症例、緊急症例に対応しています。診療グループは、対象疾患によって「虚血グループ」「循環グループ」「不整脈グループ」の3診療グループ体制となっており、それぞれが専門性を生かしつつ、互いに協力しながら診療を行っています。

「虚血グループ」は狭心症・心筋梗塞等の虚血性心疾患を担当し、冠動脈インターベンションを始めとした最新の診療を行っています。急性心筋梗塞には24時間態勢で診療に当たっており、夜間の冠動脈インターベンションにも迅速に対応しております。この10月には高度救命救急センターが開設され、更なる症例の蓄積が期待されています。2005年度の総冠動脈造影検査数は362症例、インターベンションも134症例152病変（手技成功96．7%）にのぼっています。また、冠動脈インターベンションも冠動脈バイパス手術もできない重症虚血性心臓病に対しては、低出力体外衝撃波を用いた非侵襲性血管新生療法を行っております（図1）。お困りの症例がありましたら、是非ご紹介下さい。

「循環グループ」は、肺高血圧や心筋症、肺血栓塞栓症、弁膜症、先天性心疾患など冠動脈疾患以外の種々の循環器疾患の診断・治療を担当しています。2005年度のカテーテル検査は多様な疾患症例176例に対して施行されました。肺高血圧症（図2）は一般病院ではなかなか扱われることの少ない疾患ですが、東北大学が関東以北では唯一の肺移植認定施設になっているところから、当科には東北・北関東各地から重症の肺高血圧症の患者様が多数紹介されてきており、エポプロステロール持続注入療法やエンドセリン受容体遮断薬などの先進的治療、さらには研究段階の先進治療の導入などの取り組みを行っています。診断に苦慮する心疾患患者、重症の肺高血圧患者などのご紹介をお願いいたします。

「不整脈グループ」は、東北各地から紹介されてくる心房細動や心室頻拍などの難しい症例のアブレーション治療に当たっている他、重症心不全に対する両心室ペーシング（CRT）、植え込み型除細動器（ICD）による治療等も行っています。2005年の実績はアブレーション137例、CRT11例、ICD27例などとなっています。殊にカルトシステムを駆使した心房細動に対するアブレーション（図3）に関しては日本を代表する施設になっております。頑固な不整脈や危険な不整脈に悩まされる症例、薬剤に反応しない重症心不全の症例などご紹介いただければ幸いに存じます。

昨年10月2日に高度救命救急センターがオープンしました。循環器関連救急疾患としては急性冠症候群、重症不整脈、急性肺血栓塞栓症、急性大動脈解離、心原性ショックなどがありますが、当科では救命センターにスタッフを派遣しつつ、さらにカテーテルインターベンションチームが24時間態勢で待機するなど、救急体制の確立に積極的に関与しております。急性の胸痛や息切れ等を主訴とした重症患者のご紹介、よろしくお願いいたします。当院ではヘリポートも備えており、遠方からの重症患者・救急患者も受け入れ可能です。

図1．低出力体外衝撃波による重症虚血性心臓病の治療

上段に治療前後の心筋シンチグラムを、下段に実際の治療風景を示す。シンチグラムで血流が低下している部位（左上矢印の部位および右上図青で示された部位）は治療後に正常化している。

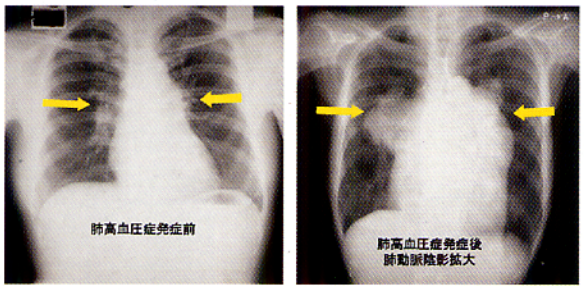


図2．肺高血圧患者の胸部レントゲン写真

発症前（左）と発症後（右）。肺動脈陰影の著明な拡大が明らかである。

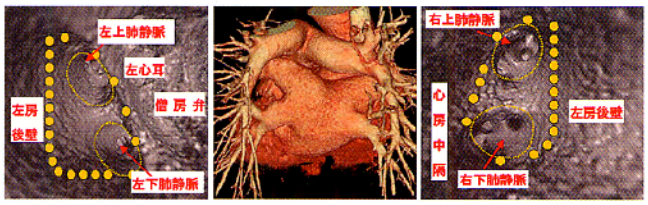


図3．カテーテルアブレーションによる心房細動の治療

左心房を背部からみたCT再構成画像（中）とアブレーション時の焼灼部位。左右の写真は左心房内左肺静脈開口部位（図左）と右肺静脈部位開口部位（図右）の再構成画像。黄色の点は焼灼部位。

また、当科では心不全を対象とした疫学調査や薬物介入を行った大規模臨床試験を立ち上げております。さらに種々の臨床試験を計画しています。世界的にも誇れる規模と質の臨床研究をめざしてスタッフ一同がんばっております。今後先生方にも症例のご提供をお願いすることもあろうかと思います。その節はご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

当科新患は月曜日から金曜日までの毎日受け付けており、受付時間は朝8時30分から10時30分までですが急患はこの限りではありません。地域医療連携センターを通して新患のご予約をいただくと待ち時間が少なくてすみますのでご活用ください。また、当科広報誌「HEART」を発刊しました。詳しくは大学病院の当科ホームページをご覧ください。

EVENT／NSTから

歯学部助教授　岩倉政城先生　特別講演会開催

「生活の中に口腔ケアを ～感覚が集中した口という臓器を見直す～」

NSTはチーム医療の原点ともいうべき組織で、栄養療法を適切に行なうために、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師、事務部門など職種の枠を越えて組織され、疾患や治療法、また診療科や病棟を包括的に捉え、また横のつながりを強化できるチームです。患者様に必要な栄養に関する情報の提供と提案を行い、疾患の治療効果の向上、在院日数の削減、薬剤、食材、物品の一元管理による包括的な経済効果、栄養関連の感染対策、誤接続誤投与防止策などのリスク解消等を期待して活動を行っています。東北大学NST活動を開始して3年目を迎え、定期的なミーティングとラウンド・症例検討を行い、週1回開催しているNST対象患者様の症例検討とラウンド、月1回のミーティングと研修会を開催しています。研修会は情報提供の場として地域の病院スタッフにもご参加戴き、患者様の栄養サポートの知識と技術の向上に役立てて戴いています。11月22日には歯学部助教授　岩倉政城先生の特別講演会「生活の中に口腔ケアを　～感覚が集中した口という臓器を見直す～」を開催致しました。地域の町や施設に“出前”して、歯の健康法を指導している岩倉政城助教授の大変ユニークな講義に吸い込まれました。口は知覚鋭敏な臓器で、その知覚を重視したケアの必要性、そして雑菌の巣窟でもある口腔のケアの重要性を再認識させられ、院内外から130名の方々にご参加頂き、口腔ケアに関する関心の高さに驚いております。次回の講演会は平成19年2月15日（水）17:30から　徳島大学臨床栄養学分野　武田英二教授による「栄養療法について」を予定しております。院内外の多くの医療スタッフの参加をお待ちしております。

ラウンド前

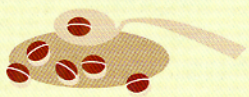
～高度救命救急センターのリアルな毎日をお届けします～ ＊コーヒーブレイク その2

●術衣の背中めくれて

11月30日に海上保安庁のヘリ搬送の訓練がありました。新東病棟完成に伴って屋上にヘリポートが開設され、ヘリによる救急搬送を受け入れておりますが、今回は新たに海難救助に備えた訓練でした。前日のヘリ搬送の時に、もの凄く寒かったので、アンダーシャツと股引を持参しました。訓練にはテレビ局が取材にきており、まず電話で連絡を受ける場面を撮りたいと依頼されました。直前に熱傷患者さんの処置をしていたため、着ていた術衣には血が付いていました。せっかく持ってきた防寒着も着たかったので、急いで着替えをしました。術衣の上着を着たときになぜか首が苦しいと思ったら、前後ろ逆だったのです。その時です、意外に早くヘリ搬送依頼の電話が鳴り始めました。看護師さんに「先生、電話でーす」と呼ばれましたが、このままではカメラの前には出られません。急いで着直して電話をとって対応しました。後で、看護師さんに、「先生、術衣の背中めくれてましたよ」って言われました。そんな姿でテレビに映ってしまったとは…。当然、放送は恥ずかしくて見られませんでした。

●一日も早い回復を

○月○日、幼児が窒息したとの救急要請がありました。救急隊が到着したときには、かろうじて脈が触れていたそうですが、来院時は心肺停止状態となってしまっていました。応援要請をお願いしていた小児科の先生と心肺蘇生をおこない、数分後に心拍再開しました。心肺停止時間は約16分間と推測されました。高度救命救急センター開設以後、蘇生後の脳低体温療法を数例施行していましたが、血行動態をみるカテーテルが小さすぎて入らないため、脳圧モニターを挿入して脳低体温療法を行いました。幸い、対光反射も良好、CT上でも脳腫脹の所見を認めず、経過は順調でした。ゆっくりと復温を終えた頃、なんと目をきょろきょろさせていたので、これは完全復活してくれるかなとドラマティックな展開を期待してできる限りの治療を行いました。今は一般病棟へ移り、ひきつづき治療を行っています。早く良くなって欲しいとスタッフ一同願っています。



一口メモ

「脳低体温療法」ってな～に?

「脳低体温療法」とは、脳が障害を受けた際に障害がそれ以上進行することを防止するため、体温を低く保つ療法のことで、人為的に低体温症を引き起こさせるものです。通常、脳が重大な障害を受けた際には脳組織に浮腫が起こるほか、カテコラミンやフリーラジカルなどが放出され、進行的に組織が破壊されていきますが、脳低体温療法は水冷式ブランケットなどを用いて患者の体温を32～34℃までに下げることで、代謝機能を低下させて有害な反応の進行速度を抑え、損傷の拡大を阻止しようとするものです。

SERIES ／認定看護師紹介

第1回：WOC看護認定看護師

WOC医療の質の向上を目指して

副看護師長　WOC看護認定看護師　**熊谷　英子**

認定看護師とは、「看護ケアの広がりと質の向上を図るために、日本看護協会が認めた特定の分野における熟練した看護技術と知識を有する看護師」をいいます。現在は17の認定分野があり、当院では、13分野16名の認定看護師が「実践」「指導」「相談」の役割を果たすべく活動を行っています。今回は、創傷・オストミー・失禁（WOC）看護認定看護師（以下WOCナース）の活動を紹介します。

WOC看護は、人・健康・環境の側面からストーマ・創傷・失禁を有するクライエントを捉えて、QOLの向上を目指し専門的な技術を駆使した看護サービスを提供するものです。

私は、2000年にWOCナースの資格を取得し、現在は、2003年に全国ではじめて開設されたWOCセンター（以下センター）の専任看護師として活動しています。センターでは、高橋WOCナースとともにセンターメンバー、院内・地域医療者との「協働」により、患者さまに質の高いケアを提供しています。

具体的な活動としては、年間のべ1700名以上の院内・外の患者さまのケアにあたり、年間1800件以上の電話やメールでの相談にも対応しています。また、WOC医療の質の向上を念頭に、WOCセミナーの開催（一部公開）、各種講演会講師、研修受入れ（8施設）、東北ストーマリハビリテーション講習会・研究会の開催支援、学会発表、執筆活動等の教育活動や患者会の講師、センター主催の公開講座、市民公開講座の開催などの社会活動も積極的に行っています。公開講座には、東北6県の医療者や市民の皆様から多数のご参加をいただいております。さらに、褥瘡対策チームの一員として、チームメンバーや褥瘡予防対策連絡委員と連携をとりながら、院内の褥瘡管理も行っています。褥瘡発生率0.26%とそのチーム医療は全国でも高い評価を得ており、病院経営にも貢献しています。

センターでの診療の様子。
「素敵なあなたの笑顔を見たいから」

今後は、センター業務の充実を図り、東北地区のWOC領域の発信地としてWOC領域の質の向上を目指す一方、病院、地域における各々の役割を明確にすることで、患者さまが人生のどの場面においても最高のケアがうけられるシステム作りを目指していきたいと考えています。今後とも皆様のご協力と温かいご支援をどうぞよろしくお願い致します。

INFORMATION

滑りにくいサンダルで「安全足進」

―入院患者さま用安全サンダルができました―

このたび医療安全推進室では、東北大学大学院工学研究科の堀切川一男教授と石巻市の靴製造業　㈱中村商店との共同で、入院患者さま用安全サンダル「安全足進」を開発しました。

ご存知のように、入院中の患者さまは、生活環境の変化や疾患の進行、薬物の影響などから転倒のリスクを抱えています。本院では入院時に患者さま一人ひとりについてスタッフが転倒リスク評価を行い、転倒予防を図ってきましたが、その経緯のなかで、転倒の一因に「はきもの」があげられるものの、なかなか要望を満たすものがなかったことが、このサンダル開発の発端です。

まず安全・安心をコンセプトに、「はきやすい」「ぬげにくい」「滑りにくい」「手頃な価格」など、入院中のはきものの必要条件をあげました。そしてその条件に合わせて、作製の試行錯誤を重ねたのです。今回のサンダルのソールには水濡れ面でも滑りにくいRBセラミックス粒子配合ゴムシートを用い、甲の部分はマジックテープで調節できるようにするなど、たくさんの工夫を加えました。これについて滑りにくさの指標のひとつである静摩擦係数を実験で測定したところ、市販のサンダルの約2倍を示すことがわかりました。今後とも利用者の声を取り入れ、さらに改良の予定です。

医療安全推進活動の一環として、様々な職種の医療スタッフ、工学研究者、地元企業の知識や技術、熱意を集めて生まれた「安全足進」。これをきっかけに患者さまや一般市民の方々にも広く転倒事故への注意を払って頂ければと考えています。

東北大学病院内の辛酉会（しんゆうかい）売店で販売しています（4色。1足 税込¥1,050）。ロゴマークの刻印を替えることもできます。

お問い合わせ先
- 辛酉会売店　022-727-7825
- しんゆう・フルケアセンター 022-727-8366

EVENT

ドナルドがやってきた！

平成18年10月16日にマクドナルドのドナルドが当院にやってきました。小児患者さまが入院されている5階病棟の食堂でドナルドショーがあり、手遊びや風船を使ったショーなどが行われました。入院中の小児患者さま、付き添いのご家族に大勢お集まり頂き、食堂には大きな拍手と歓声が響き渡りました。

その後「病室から出られない子供たちのために…」とドナルドが小児病棟の各病室を3時間かけて訪問してくださり、ベッドサイドでのおしゃべりや握手で患者さまとお母さんひとりひとりに励ましの声をかけてくださいました。お昼寝の時間を調節している子、人見知りするのを忘れてドナルドに抱っこされている子、盛んにシャッターを切っているお母さん…ドナルドの訪問により病棟は明るい笑顔で包まれました。

数年前、とある小児患者さまが当院に入院した時の事です。患者さまのお父様がマクドナルドにお手紙を出したところ、早速ドナルドによるお見舞いが実現しました。それ以来「病気と闘っている子供たちに少しでも笑顔になってもらおう」との善意で、今年で3度目の訪問となりました。ドナルドさん、また来てくださいね。

EVENT

向井亜紀さん特別講演会が開催されました

昨年10月仙台市福祉プラザにて「カトレアの森総会」が行われ、その中でタレントの向井亜紀さんの特別講演が催されました。

講演の中で、「自分が前向きに生きるためのイメージトレーニングの大切さ」や「自分の体の声に耳を傾けよう」「自分を嫌いにならないで」などと、時には涙ぐみながらお話してくださいました。

また、「がんで大切なことは、1に早期発見。2番目は心の持ちよう!」ということをある医師から教えられ次のようなことも実践されているそうです。

①小さなノートを用意（100円位の、持ち歩けるようなもの）
②自分のやりたいことを100個書き出す!（直筆!）
③声に出して読む、それを聞く
④実現できたら、一本線だけを引く。（後で見られるように）

ということを繰り返して、常にやりたいことをいっぱいにしておこうよ！と、ご自分の闘病体験を交えながら、会場を包み込むような笑顔で語りかけてくれました。楽しいお話、寿命をのばす魔法、素敵なエッセンスを振りまいていただき、会場の人々は心を打たれ涙する姿も多く見られました。

婦人科がん患者会「カトレアの森」

「女性としての美しさと誇りを持ち続けたい」という願いを込めて「カトレアの森」と名付けたこの患者会は、東北大学病院婦人科の医療スタッフの協力を得て発足しました。

茶話会などの患者同志の交流や、医療スタッフ協力による勉強会、ホームページによる情報交換と啓蒙活動などをしています。最近では東北大学病院病棟内にコーナーを設け、気軽にお話できるような窓口も開設しました。

婦人科がんは治療の過酷さもさることながら女性特有の不安や副作用を抱え、孤立感や不安の日々を抱えている方達がたくさんいらっしゃいます。全国的にも婦人科がん患者会はまだ少なく、東北大学病院に限らず婦人科がんの患者さん達の情報交換をしたり心の免疫力を高め合いたいと思っております。

*この時の様子を撮影したDVDとビデオも貸し出しができます。
詳しくは下記までお問い合わせください。

カトレアの森　事務局
tel 022-248-7846　fax 022-248-7873（郷内）
E-mail spa97wb9@wing.ocn.ne.jp
http://www.cb-gy.med.tohoku.ac.jp/patient-cancer/index.html

患者会事務局 M

EVENT

糖尿病週間「糖尿病何でも相談」を開催して

東北大学病院　糖尿病療養指導士会　**和泉　順子**

いまや日本の糖尿病の患者数は、糖尿病の人と糖尿病を強く疑われる人、糖尿病の可能性を否定できない人を含めると1620万人にものぼると推計され、40歳以上の5人に1人は糖尿病かその予備軍であると言われています。日本人は欧米人にくらべ体質的にインシュリン分泌が弱く糖尿病にかかりやすく、これに過食、高脂肪食、運動不足などの生活習慣が加わり糖尿病をひきおこします。また、健診などで血糖値が高いといわれても自覚症状がないため医療機関に行かず治療が遅れることもあります。

毎年11月の第2週目は全国糖尿病週間として、全国でいろいろなイベントが開催されます。東北大学病院糖尿病療養指導士会では、全国糖尿病週間の行事として「糖尿病何でも相談」としてイベントを開催して3年になります。糖尿病に関心をもってもらうこと、糖尿病にかかわる相談や、受診行動のきっかけをつくることを目的として、通院されている患者様、ご家族の方、病院職員の方々を対象として行ってきました。

今年度は11月8日、9日の2日間、（10時から14時まで）院内のイベントコーナーをお借りし、糖尿病について気になっていることの相談、身長・体重・BMI・体脂肪率計測や血圧・血糖値の測定を参加者の希望で行い結果をわかりやすく説明しました。また、定期的な健康診断を勧めました。相談に来られる方は年々増え、今年は2日間で約300人の方が参加され対応に追われるほどでした。初回のころは「恥ずかしい…」「どうせ痩せなさいと言われるだけだから」「運動不足とわかっているから…」と、通り過ぎる方が多かったと思います。しかし今回は、「家族が糖尿病なので自分もいつなるかもしれないので心配…」「甘いものが好きでどうしても辞められない!」「最近肥満気味で運動をしなくてはと思っているが続かないので…」など具体的な相談が多くありました。また相談者の中には、毎年このイベントを楽しみにしてくださる職員の方や、昨年指導をうけて1年間生活で注意したことなど報告に来てくださる方もいらっしゃいました。通りがかりの方も多くいらっしゃいましたが、今まで糖尿病に関心が無かった方にも興味を持っていただけたと思います。このイベントが、多くの方の生活習慣を振り返るきっかけになればと思っています。

EVENT

平成18年度 第1回ワークショップ開催しました

看護部退院支援委員会　新西16階病棟師長
松田　みち子

看護部退院支援委員会では年2回ワークショップを主催しております。ワークショップの目的は、事例に関わった関係者が一同に会して、情報・意見交換することで、施設と地域が継続した医療・看護・福祉の提供方法のあり方を考えることにあります。今年度の第1回ワークショップは10月26日18時から約1時間、多発性骨転移の事例について参加者23名で開催されました。はじめに、病棟の担当看護師から入院中の経過が話され、次に退院支援に関わった地域医療連携センターの看護師の説明、その後自宅に戻られた患者さまに関わっているケアマネージャーや訪問看護師から患者さまの様子と支援の状況が話されました。その後の意見交換では、病棟看護師からは「病棟で在宅に向けて説明が足りないことはないだろうか」との質問があり、それに対して訪問看護師からは、「在宅では、病棟での指導を踏まえ、訪問看護師が応用指導するので、病院では基本的なことを教えていただければ良い」というアドバイスがありました。また、疼痛について当院の癌性疼痛認定看護師から「痛みの原因は様々だが精神的なものも大きいので、支えてくれる人の存在が大切」とのアドバイスがありました。中でも私達が再認識したのは、入院中の口腔ケアの重要性です。入院中に口腔ケアが不十分だと、訪問看護師が摂食を勧める上で基本的口腔ケアから関わらなければならないケースがあり、その分摂食の開始が遅れるとの指摘がありました。忙しい業務の中での看護の基本を見直すきっかけとなったワークショップでした。ひとつの事例でたくさんの関わりがあることを実感できますので、次回のワークショップにもたくさんの方の参加を期待しています。

FROM OFFICE ／地域医療連携センターからのおたより

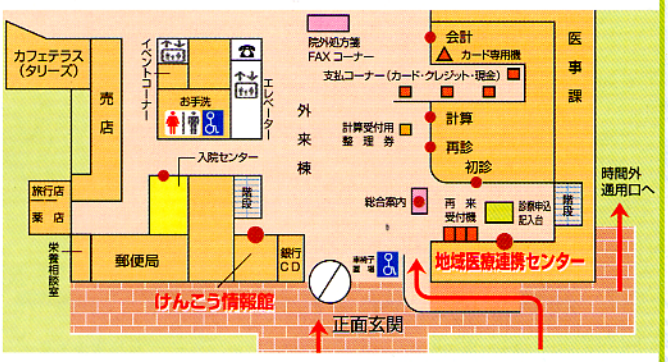
地域医療連携センターが移転します

現在、地域医療連携センターは外来棟4階に部屋を構えておりますが、2月中旬に外来棟1階の正面玄関入り口すぐの場所へと移転致します。

地域医療連携センター内に「がん診療相談室」を設置しました

東北大学病院が都道府県がん診療連携拠点病院に指定された事に伴い、相談窓口として地域医療連携センター内に「がん診療相談室」を設けました。院内外から、がんに関するご相談をお受けしております。

- 相談時間　月曜日～金曜日（祝日を除く）　9:00～15:00
  ※電話によるご相談は上記時間内はいつでも受け付けておりますが、面談は予約制になりますので、お電話にてお申込みをお願いします。
- ご連絡先
  電話 **022-717-7115**（地域医療連携センター内、がん診療相談室直通）　E-mail　ijik002-thk@umin.ac.jp



正面玄関を入って右手に地域医療連携センターが移転し、左手に「けんこう情報館」を開設します。

地域医療連携センター けんこう情報館 Tohoku university Hospital　開設しました

～病気や健康に関する情報を幅広く発信～

患者さま向け院内図書館「けんこう情報館」オープン

地域医療連携センターでは、患者さまをはじめとして誰でも気軽に、健康、からだ、病気に関する情報を収集できる場として「けんこう情報館」を開設致しました。

- 自分の病気について知りたい
- 治療方法について知りたい
- 生活する上での注意点は？
- 健康的な生活を送るための食事とは？

このような健康や病気についての情報を入手できるよう、リーフレットやパンフレット、わかりやすい医学辞典、一般向けの医学書などを取り揃えています。また、ビデオの閲覧ができるほか、情報検索用のパソコン（有料）も設置しています。

館内はグリーンと木のぬくもりで落ち着いた雰囲気となっています

けんこう情報館は患者さまやご家族が会計時の待ち時間を有効にご利用頂けるよう、また、近隣住民の方々に気軽にお立ち寄り頂けるよう、外来ホール内に開設しました。平成19年1月15日のオープン初日にはテレビ局2社、新聞社2社が取材に来てニュースや新聞に取りあげられた事もあり、毎日多くの方が足を運んでくださっています。

書籍の貸し出しは行っていませんが、館内にカラーコピー機（有料）を設置し、自由にご利用頂けるようにしました。リーフレットやパンフレット類は一部を除いてお持ち帰り自由となっています。長く当院に通院、入院している患者さまでも飽きることなくご利用頂けるよう、製薬会社さんから提供して頂いた約1000種類ものパンフレットの中から常時150種類～200種類程度を定期的に入れ替えながら配置しています。今後、資料を少しずつ増やして、充実を図っていく予定です。

- 利用時間：月曜～金曜9:00～16:00まで（土曜、日曜、祝日、年末年始を除く）
- 場　　所：外来棟1階、東北大学病院正面玄関すぐ左手
  （七十七銀行ATM裏、元総合診療部待合室）

新患日一覧

※受付時間は8:30～10:30までとなっております。(眼科・皮膚科は10時までとなっておりますのでご注意ください)
※(　)内の電話番号は各診療科外来です。

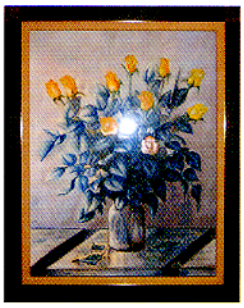
(H18. 10現在)

循環器内科 (022-717-7728)	月～金	移植・再建・内視鏡外科 (022-717-7742)	食道外科：水・木	小児科 (022-717-7744) 小児腫瘍科(022-717-7878)	月～金
感染症・呼吸器内科 (022-717-7766)	月～水		血管外科：月・火	遺伝科 (022-717-7744)	月～金　※予約制
腎・高血圧・内分泌科 (022-717-7778)	水・金		移植・肝臓外科：火・金	小児外科 (022-717-7758)	月～金
血液・免疫科 (022-717-7730)	水・金	乳腺・内分泌外科 (022-717-7742)	乳腺外科：月・水・木	皮膚科 (022-717-7759)	月～金（8：30～10：00）
糖尿病代謝科 (022-717-7779)	火・金		甲状腺外科：火・金	眼科 (022-717-7757)	月～金（8：30～10：00）
消化器内科 (022-717-7731)	火・金	心臓血管外科 (022-717-7743)	木・金	耳鼻咽喉・頭頸部外科 (022-717-7755)	月・水・金
老年科/漢方内科 (022-717-7736)	老年科：水	整形外科 (022-717-7747)	月～金	肢体リハ (022-717-7751)	月・水・木・金
	漢方内科:火・水　※予約制	形成外科 (022-717-7748)	月・水・金	運動リハ (022-717-7751)	月・水・木・金
心療内科 (022-717-7734)	月・水・金	麻酔科 (022-717-7760)	水・金	内部リハ (022-717-7751)	月・水・木・金
遺伝子・呼吸器内科 (022-717-7875)	月・水・木・金	緩和医療科 (022-717-7768)	月・火・木　※予約制	高次リハ (022-717-7751)	月・水・木・金
腫瘍内科 (022-717-7879)	月・火・木・金	呼吸器外科 (022-717-7877)	月・水・金	放射線治療科 (022-717-7732)	月～金
肝・胆・膵外科 (022-717-7740)	一般新患：月・水・金	婦人科(022-717-7745) 産科 (022-717-7745)	月～金	放射線診断科 (022-717-7732)	月～金
	膵臓疾患：月	泌尿器科 (022-717-7756)	月・火・水・金	加齢核医学科 (022-717-7880)	月～金 ※出来れば火・水・木
	肝胆道疾患：金	神経内科 (022-717-7735)	火・金	総合診療部 (022-717-7509)	月～金
胃腸外科 (022-717-7740)	一般新患：月・水・金	脳神経外科 (022-717-7752)	月・木・金		
	胃腸悪性疾患：水	脳血管内治療科 (022-717-7752)	火・金		
	炎症性腸疾患：木	精神科 (022-717-7737)	月・水・金		

INFORMATION

絵画が寄贈されました！

昨年10月、当院を6月に退院された患者さまが絵画を寄贈してくださるという出来事がありました。患者さまは入院中、医師・看護師の対応や手術時のCD（BGM）持込み許可をはじめとする当院の対応に感激されたとの事から、自作品等の所蔵絵画9点の寄贈をお申し出くださいました。患者さまのご厚意に感謝の気持ちを込めて、里見病院長から患者さまへ感謝状をお渡しし、寄贈して頂いた絵画は中央廊下とエレベーターホール（高度救命救急センター側）に展示させて頂きました。ときおり足を止めて絵画を鑑賞されている方の姿が見られ、通りがかった方たちの目を楽しませています。



寄贈された絵画

お問い合わせ先一覧

代　表　022－717-7000(8:30～17:15)
事務当直　022－717-7024(上記時間帯以外)

※受付時間は8時30分から17時15分までとなっております。

お問い合わせ先	番号	備考
地域医療連携センター	診療案内等 022-717-7618 予約等 022-717-7131	診療日・受付時間等の確認、紹介患者さまのご予約等につきましては、お気軽に地域医療連携センターまでお問い合わせください。
セカンドオピニオン外来	医事課　セカンドオピニオン受付担当 022-717-7076	予約制となっております。事前にお電話にてご連絡をお願い致します。
遺伝カウンセリング	小児科外来 022-717-7744	予約制となっております。受診日につきましては事前にお電話にてご確認くださいますようお願い致します。
緩和ケアセンター入棟相談	緩和医療科外来 022-717-7768	
ＷＯＣセンター	022-717-7652	
高度救命救急センター	022-717-7499	
治験センター	022-717-7772	
臓器移植医療部	022-717-7702	移植外科の新患日は火・金となっております。（火・金以外でも対応可能な場合がございますので、別の曜日で受診ご希望の場合には、臓器移植医療部までご連絡をお願い致します。）
核医学・PET検査受付	022-717-7680	

編集後記

「With」第3号はいかがでしたでしょうか。
この広報誌が皆様のお手元に渡る頃、地域医療連携センターはこれまでの外来棟4階から1階へと引越しをします。正面玄関を入ってすぐ右手に場所を移し、患者さま、ご家族により近い場所で、相談支援部門の充実を図りたいと考えております。
今年も1年どうぞよろしくお願いします。

● 編集・発行　東北大学病院地域医療連携センター　TEL：022-717-7131　FAX：022-717-7132
E-mail：ijik002-thk@umin.ac.jp
ご意見、ご要望がございましたら、地域医療連携センターまでお願いいたします。

PRINTED WITH SOY INK R100